

## 人間社会学域 学校教育学類

※各学類毎に、希望するテーマを第3希望まで選んでください。  
ただし、希望の講座で実施できない場合があります。  
申込みは希望日の2か月前までにお願いします。

No.	学類	講座名称	講座の概要	対面	オンライン
1	学校教育学類	教師の立ち位置とは？	30人の学級全員を満足させる授業はどんなものでしょうか。物事の捉え方は人それぞれ違うのだから、全員を満足させられる授業などできるのだろうかとか疑問に感じていないでしょうか。そして良い先生とはどのような先生なのでしょうか。おもしろい仲の良い先生が本当のよい先生なのでしょうか。そのようなことを一緒に考えてみませんか。	○	×
2	学校教育学類	すごい思考力！すごい創造力！	簡単な「描くこと・作ること」の演習によって、あなたの思考力と創造力がきらめく瞬間を体験しよう。あなたはものすごい思考力と創造力を持っている！	○	×
3	学校教育学類	楽譜には何が書かれているのか	西洋古典音楽の楽譜には、作曲者の様々な想いが記されています。その中でもピアノ作品の楽譜を見ながら、説明していきます。	○	×
4	学校教育学類	「しょうがい」について考える	みなさんは、「しょうがい(障害、障病)のある人」に、どのようなイメージを持っているでしょうか。「しょうがい」には様々な種類があり、「しょうがいのある人」が抱える困難にも、様々なものがあります。また、社会の「しょうがい」や「しょうがいのある人」の捉え方も、昔と比べると、かなり変わってきています。これらのことを解説すると共に、「しょうがい」についてみなさんと考えていきたいと思ひます。	○	○
5	学校教育学類	赤ちゃんと指さしのはなし:指は何をさし	赤ちゃんは、ことばを話すようになるまで、自分の思いを伝えることができないのでしょうか。いいえ、そのようなことはありません。例えば、指さし。指さしには、「あれを取って」「あれを見て」「あれは何?」「これだよ」など、実に様々な意味を込めることができます。赤ちゃんと指さしの不思議について、紹介したいと思ひます。	○	○
6	学校教育学類	英語教師になるための知識 -第二言語習得論から-	英語教師になるためには、大学で様々な知識や技能を身につけます。英語科教育関係の授業では、主に教え方に関する知識や技能を学びますが、その中で第二言語習得についても学びます。どのように第二言語が習得されるのかが解明されてきていますが、その成果は英語教育への示唆に富んでいるといえます。その一端を紹介したいと思ひます。	○	×
7	学校教育学類	算数・数学の優れた教師になるために	算数・数学の優れた教師になるための基礎となる数学的活動についての講義を予定しています。	○	×
8	学校教育学類	<わたし>の体はわたしの<もの>?	私の体は私のもの、と普通は考えられます。私のものなのだから、私の自己決定に基づいて、他人に迷惑をかけないかぎり、自由に処理してもいい、とも考えられます。では、本当に「何でも」やっていいのでしょうか?この講義では、生命倫理学の問題を幾つか取り上げて、身体の自己所有という考えについて哲学的に検討してみたいと思ひます。	○	×
9	学校教育学類	「赤ちゃんポスト」から考える 家族と社会	2000年にドイツのハンブルク市に「赤ちゃんポスト」が設置され、その後他の国々でも設置されるようになりました。日本では、2007年に熊本市の民間病院が「こうのとりのゆりかご」と名付けて開設し、問題を問ひかける契機となりました。「赤ちゃんポスト」をテーマに、現代の家族と社会の課題を考えます。	○	×
10	学校教育学類	スポーツの中の物理学	身体活動の一領域であるスポーツについて、科学的、物理学的な視点から概説していきます。	○	×
11	学校教育学類	リズムのおもしろさ	「生活リズムを整えましょう」「リズム感のよいドリブル」「テンポのよいつっこみ」など、「リズム」や「テンポ」は、私たちの生活の中でも使われる音楽用語ですが、音楽を演奏する時だけではなく、スポーツやコミュニケーションの場でも用いられます。実際に簡単なリズムトレーニングでターゲットを分化(両手両足)し、それぞれで独立したリズムを捉える体験をしてみます。	○	×
12	学校教育学類	子どもを守る！一法を基点としてー	学校生活は子どもたちにとって楽しいこといっぱいですが、しかし危険と隣り合わせの空間でもあります。子ども同士の喧嘩によるけが、体育授業中の事故、校外学習中の熱中症などなど。子どもの安全を守るために教師に必要な視点や考え方について「法」の観点から考えてみたいと思ひます。	○	×

No.	学類	講座名称	講座の概要	対面	オンライン
13	学校教育学類	人間の自立とは —動物と比較して考える—	人間の自立とは何か、動物と比較しながら考えます。まず、①時間軸を持っていること、②ルールを改変できること、に焦点を当てることで全ての人間が自立可能であることを示します。次に、①対話できる他者の存在、②自治(的)活動の経験が人間の自立を促す教育に必要であることを確認します。	○	×

担当 学務部入試課学生募集係 076-264-5162